北九州市を掘る（106）

埋蔵文化財速報展

小倉城下の侍屋敷－紺屋町遺跡第２地点の調査から－

1. はじめに

紺屋町遺跡第２地点は小倉北区紺屋町に所在します。発掘調査は住宅建設に伴って実施されました。調査期間は令和３年12月27日から令和４年１月18日までで、調査面積は152.3㎡です。

調査区の周辺は、かつての小倉城下町の東端部に相当します。慶長七年（1602）、初代小倉藩主細川忠興によって整備が始められた近世小倉城下町は、紫川を挟んで東西に大きな区画を設けます。そして、その西側の区画を西曲輪、東側の区画を東曲輪と呼んでいました。西曲輪には南北方向に標高10m程度の低い台地が延びており、天守をはじめとする城郭の主要施設や重臣の屋敷地などがありました。一方の東曲輪は起伏のない低く平らな地形となっており、侍だけでなく多くの町人が居住しました。また、寺社なども多く配置されていました。

安政年間（1854～1860）に描かれたとされる『小倉藩士屋敷絵図』と現在の調査地点を照合させると、調査区は東曲輪東端部の一画にあり、東西方向に長く東側に出入口を設けた「御先弓組明屋鋪」の一部に相当しているものと考えられます。また、ここから南側へ約50mほど進むと城外へと通じる仲津口門へとつながります。

2. 調査の成果

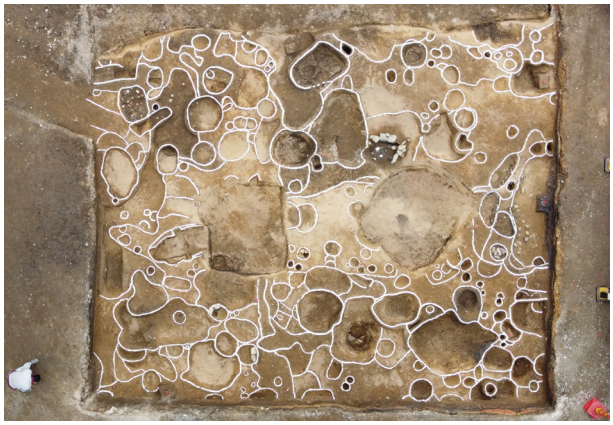
調査の結果、基盤層として黄色系砂層が確認されました。これは紫川河口部東岸域に形成された三角州に由来するもので、周辺域の発掘調査でも同様に確認されているものです。

遺構はこの砂層上に密集した状態で検出されました。その数は井戸２基、埋甕２基、土坑90基、溝状遺構１基、ピット168基等、調査面積に比べて非常に多数に及びます。なお、出土遺物には17世紀代、18世紀代、19世紀代と、近世から明治期に及ぶ幅広い時期のものが認められますが、主体となるのは、19世紀、近世後半から明治期にかけてのもので、この頃に活発な人間活動が行われたことを示しています。一方、17世紀～18世紀代の遺物はわずかでした。

なお、時期の想定できる遺構配置の特徴としては、17世紀代が調査区北東端部に、18世紀代の遺構は調査区西側に、19世紀でも近世の遺構は調査区西側と中央付近に、明治期の遺物を含む遺構は調査区東

遺跡の位置（1/25,000）

小倉藩士屋敷絵図中における調査地点



調査区全景（上が北東）

２号井戸検出状況（南西から）

側にまとまる傾向が認められます。

礎石や石列等がほぼ残っていないことや、それぞれの遺構が密集しすぎているため、建物の具体的な配置や変遷を考えることは困難な状況です。しかしながら、17 世紀から 19 世紀にかけての遺構の位置関係や、南側に位置する 19 世紀代の井戸、その側にある便所として利用された埋甕、石組遺構、当時の生活用品を廃棄した北西側に位置する 19 世紀代のゴミ捨て穴などの特徴的な遺構の配置から、おおまかな様子を類推することができます。

3. 小倉城下、侍屋敷の一事例

では、この場所はどのような変遷をたどったのでしょうか。出土遺物から 17 世紀にはこの地点が生活に利用されていた事がわかります。これは、東曲輪の形成過程を考える上で重要な成果と言えます。一方で、17 世紀から 18 世紀までの遺物が少ないことから、まだあまり活発な土地の利用は行われていなかったものと考えられます。

生活の痕跡がはっきりとしてくるのは 19 世紀になってからです。調査区北西側では 75 号土坑や 94 号土坑といったゴミ捨て穴が設けられており、ここからは多くの遺物が出土しました。幕末頃に描かれたとされる絵図に「明屋鋪」（空き家）と表記されるこの地もその直前までは誰かが暮らしていたのでしょう。また、このようなゴミ捨て穴は、一般的に建物の空閑地に設けられるもので、調査区西側は裏庭のようなひらけた場所であった可能性があります。なお、敷地内の大部分を裏庭が占めていたとは考えにくく、少なくとも調査区中央付近から東側には建物があったはずです。この建物部分に位置する 19 世紀代の近世遺構群は、この時期に建物が改築された際の痕跡である可能性があります。飲み水としても利用される井戸のすぐ脇に便所（埋甕）が位置することも、改築に伴う時期差を想定すれば不自然ではなくなります。このような改築を経て、最終的に「明屋鋪」となったのかもしれません。

1 号埋甕検出状況（南から）

8 号土坑（石組）検出状況（南西から）

75 号土坑遺物検出状況（西から）

その後、明治期になると建物の入口側である調査区東側に多くの土坑が設けられるようになります。それまでの遺構配置とは一線を画しており、土地利用の大きな変化があったことを窺わせています。

埋　蔵　文　化　財　通　信

埋蔵文化財調査室では、令和 5 年度に入って、小倉北区の魚町遺跡第 3 地点、小倉南区の石田遺跡第 7 地点、高野遺跡第 5 地点、貫･裏ノ谷遺跡第 2 地点、門司区の旧門司駅舎跡で調査を行いました。これらの最新の発掘情報などは、ホームページにて公開しています。イベント情報なども随時アップする予定です。是非、ご覧下さい。

なお、イベント情報は市政だよりでもお知らせしております。あわせてご利用下さい。

編集・発行

公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
埋蔵文化財調査室
〒803-0816　北九州市小倉北区金田一丁目 1-3
TEL(093)582-0941　FAX(093)582-8970

北九州市市民文化スポーツ局文化企画課
〒803-8501　北九州市小倉北区城内 1-1
TEL(093)582-2391　FAX(093)581-5755

発行日　令和 5 年 12 月 19 日

ホームページ
北九州市の埋蔵文化財　検索